



NPO日本朗読文化協会

朗読ニュース

2012年春号



朗読でたどる更級日記
千葉県男女共同参画センターまつり



第4回朗読アラカルト



震災ボランティア朗読会・宮城県岩沼市「たけくままつり」

○ 新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

昨年の大震災では NPO 日本朗読文化協会の会員の方で被害に遭われた方も居て、それでも皆様の安否も確認出来たことで安心致しました。協会としてもその方達への励ましと共に被災地支援の活動をしてまいりました。その件は同紙に掲載しておりますので、ここでは省かせて頂きます。

ところで皆様が何故朗読をされるのかと言うことを考えてみましたが、ちょうど良い例があるので、ここで書いて見ることに致します。それは知人の紹介で三浦雄一郎様にお会いしたことがあり、その時のお話です。三浦様は元々は「獣医大学」の卒業ですが、そちらの方には進まず、プロスキーヤー、冒険家として有名になられた方ですが、「何故山に登るの？」との質問には「山がそこにあるから」ーイギリスの登山家ジョージ・マロリーの言葉ですが有名ですね。三浦さんは 70 歳と 75 歳でエベレスト登頂を果たされましたが、それを決意した時は彼はひどいメタボで、狭心症、糖尿病等病気のデパート、ご本人曰く「くたばりそこねの年寄りで、よぼよぼ歩き状態」だったそうですが、「山がそこにあるから」でトレーニングを開始し、5 年後には 70 歳での登頂に成功したとのことでした。

しかしその時の無理がたたたり、2 度の心臓の手術を受け、そして 75 歳で又登頂したそうです。今回は 80 歳での登頂を目指しているとか。つまり「山がそこにあるから」だけでどんな困難も征服して来たと言う訳です。朗読を愛してやまない皆様も多分「本がそこにあるから」で前進されているのだと感服している次第です。10 周年めの節目の今年は皆様の活躍と、NPO 日本朗読文化協会の発展を期待し、私も全力を投入してまいりまいる所存でございますので、どうぞよろしくお願い致します。



理事長 城所ひとみ

○ 震災から一年

声のグループ・ひいらぎの会

安倍眞壽美

東日本大震災から半年が過ぎ、被害のなかった秋田から、何とか被災地に向けて応援できないものかといういろいろ考えた末、「ひいらぎの会」の朗読会に被災者の皆さんを招待することにしました。秋は「大人のための童話の時間」、今回は岩手出身の馬頭琴奏者 NAGISA さんを迎えて、アジアの昔話と日本の童話を紹介するもので、5 人の出演者は皆東北人、心は繋がっています。

被災者を受け入れているホテルや旅館、生活支援団体などをお願いして呼びかけてもらいました。公演当日、秋田で避難生活をしている夫婦や家族連れが訪れ、一般のお客様といっしょに朗読と馬頭琴の演奏を楽しんでもらいました。その日の夜、受け入れ施設から「とても楽しかったと喜んでいましたよ」という電話があり、出演者一同ホッととして「よかったね」

今年 3 月 10 日は、馬頭琴奏者 NAGISA さんといっしょに、盛岡市でチャリティー「馬頭琴と朗読のつどい」を予定しています。収益金は被災地応援の義捐金とし、少しでも復興のお役にたちたいと願っています。



宮城・岩沼市たけくま
朗読ボランティアに参加して

城所ひとみ

10 月 23 日 たけくままつり会場で準備中、子供達の歓声と戸外で焼きそばなどを賑やかに楽しんでいる皆様が果たして会場内に来てくれるかと心配でしたが、担当スタッフの懸命な呼びかけで 8 割くらい座って下さりほっとしましたが、半分は小学生のお子様達でした。長野さんはさすがに地元仙台、すぐ打ち解けて楽しい雰囲気です。司会をしてくださいました。

朗読は、少し子供には難しいものも多かったのですが、それでも静かに最後まで聞いてくれました。途中から近所の高齢者施設の方が車椅子で来てくださり、大きな拍手をしてくださいました。最後は会場の方全員で大きな声と一緒に詩を読んでくださいました。

子供向けの読み聞かせを持っていかなかったのが悔やまれますが、こどもたちが落ち着いて聞いてくれたのが嬉しかったです。

帰りの車の中で長野さんに「仙台は見た限りすっかり綺麗になって復興出来ていると感じましたが、でも実態はそうではないでしょうね。このまま帰ってしまったら、仙台はもう大丈夫よ、と言ってしまいますが、それは違いますよね。もし良かったら現地を少し見せていただけませんか」とお願いしましたところ、長野さんが暫し沈黙した後「実は私もいつかはと思いながらも怖くて近寄れなかったのです。まして一人ではとても行けませんので、皆様と一緒に勇気を出して行こうと思います」と案内していただきました。そこは「閑上^{ゆりあげ}」という地域で仙台空港があるところです。見渡す限り均された土地で、まさに広い平野です。ここで津波が来たからと言って一体どこまで逃げたら良いので

しょう。平野は、津波となると怖い土地です。そしてそこは津波が来るといわれた3時頃には来なくて、逃げた人々が家に戻った1時間後に突如津波が襲ってきたのです。それが壊滅的な被害を引き起こしたのです。

広い土地に数軒の家が残っていて1階部分は柱だけですが、2階は窓ガラスもカーテンも閉まっているので「今は避難所にいるのかしら、家が残ってよかったわね」と言ったところ、長野さんがとても辛そうに「この家の人達は全員が亡くなっていると思います、この時期に家が残っているのは、家人から取り壊し要請手続きがないからです。」「えっ…」言葉もでませんでした。現地を拝見したことで初めて現実が少しだけでもわかりました。

今は人々がとても明るくしていましたが、現地のスタッフも「頑張ってたか、大変でしたねと言われたくない、むしろ今回の祭りに参加して一緒に楽しんでほしい」というように今は自分を奮い立たせ、日々の生活を最優先にしているのです。

阪神大震災のデータでも震災後1年半過ぎから心の中の思いが噴出してくるそうです。それを踏まえNPO日本朗読文化協会として、被災者支援ボランティアはこれからが大事だと思います。これからも又この活動をしっかりとやり続けなければと心に強く誓いました。



活動報告



第63回八重洲朗読会 1月21日



第4回ヒルズ・サロン朗読会 1月20日



新年会 銀座ラフィナーレ 1月29日



「運営委員」永年担当の表彰



《朗読 & 講演 更級日記の世界「文学少女の夢と現実」》に参加して

12月10日千葉市男女参画センターホールにて更級日記の朗読会があり、NPO 日本朗読文化協会から15人の出演者と、スタッフとして三上、坂本、松島の3人、加賀美先生、城所理事長、山田事務長が参加しました。

特別寄稿

加賀美幸子



『源氏物語』や『枕草子』とは、又違った意味で『更級日記』が今人気である。『源氏物語』や『枕草子』を卒業した人達、又は、紫式部や清少納言はあまりに光輝きすぎて、自分には遠い存在のような気がして近寄れないという人達をひきつけてやまないのが『更級日記』であり、作者菅原孝標女である。先日、加賀美教室『更級日記』の有志15人が千葉市男女共同参画センターにて朗読会を催したところ、広報の前から、噂が伝わり、殺到し、200人の会場はすぐ一杯になってしまった。期待が高いために、朗読者の力と内容が問われる怖い舞台でもあったが、公演は大評判となり、人々の心を動かした。

実は殆んど全体系ハーサルなしの状態であった。しかし、それぞれが、それぞれの世界をつくり、寄せ合ったため、ただ一色の朗読会とは違い、お互いの息遣いを聞きながら息を合わせたため、一人一人の世界が見え、さらに厚みと幅がでて、会場にみなぎった。

加賀美自身も時間はなかったが、原作を15人分にカットし、いつもどおりの加賀美訳。朗読者に全幅の信頼を置いて、ゆとりをもって『更級日記』に臨めたことは、何より幸せであり嬉しく、何より会場人々の心を動かし絶賛された実績は、朗読を考える上で大事にしたいものである。



出演

青木ひろこ・秋山悦子・飯島晶子・稲本由美子・小川弘子
金澤早苗・佐々木富紀・田中邦子・轟由美子・羽村郁子
深澤真理子・松永朱未・見澤淑恵・宮崎弥生・山村 都

出演者の声

秋山悦子



3階の調光室から、第1部の朗読を聞いた。満席のホールには『更級日記』を携える人も……。客席と舞台の息遣いが響き合い、孝標女の生き生きとした口吻が、ガラス越しに伝わってくる。

15人の出演者を支え、加賀美先生を補佐し、裏方に徹して下さった、スタッフの御苦労が想われた。御忙しい中、出演者への細やかな注意点をメールで送って下さった先生の御心遣いも……。第1部の朗読に恥ずかしくないようにと。掛け声をかけ舞台に立った。

山村さんの優雅な表紙が、私達の手寄り添い、客席の理事長・事務局長の温かい眼差しを感じながら、祈る思いで朗読した。熱い拍手と、先生や皆の笑顔が、心に優しく咲き続けている。

見澤淑恵



「あづま路の道のはてよりも」で始まる「更級日記」。1人の女性の生涯が綴られた日記を読んでいくうちに、作者孝標娘を愛おしく思えてきました。それは加賀美先生が度々お話し下さった「彼女の内に向う悲しさや優しさがあふれた文章、果たせなかった人生への共感」からくるものでした。

今回の朗読会は、原文と現代訳を交互に朗読しました。主な場面を抜粋し、15名が朗読して二部構成で約90分、更級日記を満喫できます。皆様の多種多様な朗読を拝聴し、朗読の楽しさを味わう機会にもなりました。

千葉市は、「更級日記」の出発地・市原市に隣接する地域ということもあり、著書持参で参加される熱心なお客様の姿が多々目にとまり、異色の緊張が漂いましたが、市長をはじめ多くの方から好評の声をいただきました。

このような機会をいただきましたことを加賀美先生と協会に、そして台本作りから各種調整等お世話係の皆様のご尽力に深謝いたします。

《朗読&講演 更級日記の世界》 に参加して

< 出演者 >

☆出演して

・15人で読み継ぐということで、声も読み方も10人10色に変わり、皆で作品を作り上げることが新鮮な驚きで、楽しかった。
・初舞台の人も含めて参加者同志知り合え、一体感が感じられ、親しさが増す…それが面白かった。 ・加賀美先生が終わってすぐ「ますます更級日記が好きになりました」と言ってくださって嬉しかった。 ・皆の朗読を音で感じ、日記の世界に浸りながら自分も旅しているような気持ちで楽しめた。 ・皆と作品を作り上げる楽しさを味わうことが出来た。構成が素敵で、加賀美先生にナレーションをして頂け感激した。

☆日記のこゝろ

・原文3分現代文3分にまとめた台本で、現代文は自分なりの言葉に変えることもでき、その作業が面白かった。 ・地味な作品なのに人の話を聴いても自分が読んで、とても面白かった。

☆会場の様子等

・会場では、多くの方が「更級日記」を広げながら聴いて下さっている。そんな中で楽しく読め、しかもその方達が喜んでくださったと伺い、とても嬉しい。 ・客席が一杯で、緊張感の中やりがいがあったし、楽しかった。本番が一番良かった。

☆古典について

・古典は憧れながらも自分だけでは踏み込めないが、講座で、その世界に触れられて楽しい。 ・人の気持ちはいつの時代も変わらないので時空を超えられ、また時の流れを感じる事が面白いし好き。 ・歴史が好きで更級日記のルートを勉強していたが、本を見ながら朗読を聴いてくださっている方達に自分を重ね、

本当に良かった。 ・読書が苦手と古典など避けていたが、学んでみたら味わい深く好きになった。今回朗読できたことは、宝物のような喜びです。

<スタッフ>

「朗読会を無事に成功させたい」との思いで、一同係わった。出演者達は私達との連携もよく、整然とした美しい出来映えで、全力投球していることが伺えた。出演者は、6分間の朗読をするために千葉まで行き、やり遂げるという思いで団結し、その結果、企画も朗読も事前に思っていた以上に成功して報われてよかった。

終わって会場を出たら大きなお月さまも満足げに笑っていました。その夜は空でも皆既月食の祭典！

会場アンケート

- ◎皆さんの朗読に聴き入りました。感激しました。是非またこの企画でやって欲しいです。
- ◎更級日記、原文を読んだ後、現代文で読みなおされて文学少女から晩年までのたどった道、心情が心に響きました。又、弦楽四重奏もいいハーモニーでした。
- ◎更級日記、現文と現代語訳と両方朗読して下さり、分かり易かった。
- ◎現文も訳文もどちらも味わい深い朗読となっていて感心致しました。加賀美さんの概要説明も非常に良かったです。

第4回朗読アラカルト

第4回朗読アラカルトが、昨年11月20日(日)12時半より18時半まで、高輪区民センターホールで行われました。出演者は30人、来場のお客様は180名余。

仕事の都合等で「朗読の日」に出演できない方や、舞台経験のない方々が気軽に経験できる場として生まれた「朗読アラカルト」です。自由に好きなように自分の時間、10分を使えることから、大きな舞台では味わえない朗読者の個性が発揮されます。今回も朗読作品にはエッセイ、童話、詩等様々。朗読の間に昔懐かしいばなのたたき売りの口上が入ったり、語りがあったりと聞く人にとって楽しい朗読会の一面がありました。が、それと共に、自由の余り、舞台に対する真剣さが欠け、練習不足ではと思われる朗読もあったようにも思います。それでも初々しい初参加の方、ベテランやいつもの舞台では聞けない方達がバランスよく混ざり、良い会を持ってたと担当者一同自負しております。

お客様も、毎回楽しみに聞きに来て下さるリピーターもあり、回を重ねるごとに協会のイベントの一つとして、しっかりと確立されてきた感じがします。今年は第5回を迎えますが、協会10周年にも合わせ、これからどのように展開されていくのか楽しみに思えます。(阿部侗奈)



○ ～地方からの発信～

宮下郁子

札幌冬だより

一陽来復・・・昨年は東北大地震という未曾有の災害、それに伴う原発事故が起きました。一日中テレビをつけ、自然の脅威の前になすすべもない虚しさを思わざるを得ない日々でした。そんな中間こえてきたのが金子みすずの優しい言葉、俳優たちが読む「雨ニモマケズ」の声（札幌の地下通路では、毎日渡辺謙さんが朗読している映像が映し出されていました。）そして、御自身つらい目に遭いながらも人を思いやる東北被災地の方々の言葉の数々に胸打たれました。人を包み、慰め、心にしみ込む言の葉は、言霊となって人々を癒し続けました。言葉をお届けする活動をしている者として、何かをしなければという気持ちに駆られ仲間と“連声”の会を立ち上げ、東北作家の作品を読むチャリティ朗読会を5月に開催致しました。（写真上。今年も3月10日に第2回を開催いたします。）更に、通天橋で名高い京都東福寺でもチャリティ朗読会を同月に開催したところ、大雨にもかかわらず150名超の方々が東京、大阪、神戸、三重、各地からかけつけて下さいました。これらの活動を迅速に行えましたのは、各会場を提供して下さいました関係者と、源氏物語千年紀を機に「源氏物語」を朗読し続けたいと、ドラマチックリーディンググループ「葦」KURAを結成した仲間のおかげと思っています。（メンバーは、鈴木瑠以子、関口淳子、私のNPO日本朗読文化協会会員）「葦」のメンバーと2009年2010年「女人源氏物語」全6回計12巻を舞台朗読の形で行いました。2009年から現在まで年3回ジュンク堂札幌店で朗読会。札幌コンサートマスター大平まゆみ氏とのコラボ VOICE&VIOLIN、2010年～2011年札幌市中央図書館共催「ろうどくの小径」を月1回全12回、2011年8月には「舞台朗読への挑戦」と題して、札幌教育文化会館主催演劇フェスティバルに招かれ「源氏物語」を朗読。音と光・日本舞踊とモダンダンスと朗読という新しい形で、舞台朗読の醍醐味を体感致しました。（北海道全域から500名の方々にいただきました。）又、10月には第26回国民文化祭京都2011に招かれ、京都東本願寺において「源氏物語」を読ませていただきました（写真下）。11月は、札幌能楽会の方々と千年前の発音を復元した「源氏物語」の朗読と観世流の謡、宝生流の仕舞のコラボ。一般

の方に興味を持って頂けるか心配でしたが、定員150名のところ300名が来場下さり、お客様の熱気に圧倒されました。「源氏千年紀」以降、古典文学の持つ言葉の美しさと奥深さに惹かれ、古典中心の朗読グループ「古都」を作り、京都、奈良、大阪、富山（そして北海道の私）の仲間と、毎年京都府庁旧庁舎で朗読会をしています。毎回100名満席で好評です。2011年10月から渡辺淳一文学館で「葦」メンバーが、渡辺淳一先生の作品のみを朗読する“はなえみの会”を企画し館主催行事として続けることになりました。渡辺先生にもメンバー（鈴木、関口）が直接お会いさせて頂き、大変喜んで頂きました。

という訳で、朗読づけの毎日です!! “趣味”というよりメンバーには“いきがい”そして若さのヒケツです。これも朗読の楽しさ、特に舞台朗読のワクワク感を教えてくださったNPO日本朗読文化協会の皆様のおかげと日々感謝しております。

一陽来復・・・皆様にとってすてきな年になりますよう、祈念してやみません。



○ 朗読赤十字奉仕団

当団は、2010年4月に朗読文化協会運営委員有志及びかもめ代表を中心として発足いたしました。日本赤十字社東京支部特殊奉仕団に属しております。目的は朗読の普及と日本赤十字社を多くの方々に知っていただくことです。協会会員・非会員にかかわらず一般的にどなたでもご参加いただけます。ただ、現在のところは団員の大半は協会会員であることもあり、今後の活動は協会（主に「かもめ」）の活動と両立できるよう協力し合い、それぞれの特色を生かすように進めていきたいと思っております。まだまだ活動の

場は少なく限られておりますが、団員の皆様とご相談しつつ楽しく有意義なグループにしたいと思います。

※団員になると、必然的に日本赤十字社員となります。

日本赤十字社主催の研修その他に参加していただけるとありがたいです。（義務はありません）

※年に2、3回朗読奉仕団独自のミーティングをしております。

※現在定期的な訪問朗読をしているのは千葉県匝瑳市の聖マーガレットホーム（障害者支援施設）です。

<これから>2011.11～2012.4			
2月18日	ふくしま四人会語り	須賀川市文化センター	穴澤修子
2月19日	観世九皇会若竹能 能で綴る平家物語「通盛」	矢来能楽堂	飯島晶子
2月19日	震災支援ありがとう長野県	長野県小諸市健速会館	穴澤修子
2月25日	民話と朗読の集い	郡山市小原田地域公民館	穴澤修子
3月4日	《《アイルランド・民話と音楽》》 ～セントパトリックスディを祝って	西荻窪「音や金時」	青木ひろこ
3月8日	ぶれさんぼうず 仲間たちの朗読祭	内幸町ホール	宮尾壽里子
3月10日	大人の童話	盛岡市おでんせホール	安倍眞壽美・飯島晶子
3月11日	いわき「東日本大震災鎮魂の会」	福島県いわき市	飯島晶子
3月15日	ドラマティックリーディング「夢の刻」	しもきた空間リパティ	浅霧ひとみ・古内恵美子・宮下郁子
3月20日	朗読「声にして楽しむ源氏物語」	三越劇場	山村都・加藤敬子
3月24日	語りの世界への誘いXIV	横浜イギリス館	山元智子
3月30日	「終の檻」	武蔵野芸能劇場（三鷹駅前）	河崎早春
～4月3日			
3月31日	SPRING HAS COME !	池袋西武百貨店コミケレホール	飯島晶子
4月13日	朗読劇「滝口入道 全編」	深川江戸資料館小劇場	市原タツ子・川口和代・坂本有子 津田千代子・寺田道雄・西林千恵子 松森世津子
4月14日	京ことばの世界	深川江戸資料館小劇場	本間恵子・三上実枝子
5月5日	ショートファンタジーの世界	和灯屋	青木ひろこ
5月23日	春の朗読まつり	深川江戸資料館小劇場	近藤とうこ
6月2日	第18回伝統芸能の会・謡と朗読・通小町	栃木県総合文化センター	青木ひろこ

次回朗読ニュースに、朗読会などの活動状況「掲示板」への掲載をご希望の方は
5月11日（金）までに事務局へメールまたはFAXにてご連絡願います。
対象期間：2012年6月1日～2012年10月31日

○ イベント情報

2月八重洲朗読会 第64回

日 時：2012年2月25日（土）
16:00～17:30
会 場：八重洲ブックセンター本店8F
出 演：永井喜代子・深澤真理子・秋山道子
稲本由美子
入場料：無料

3月24日（土）第65回八重洲朗読会

3月24日（土）プランタン朗読会（児玉教室）

河崎早春の朗読ワークショップ 「朗読の中のセリフ」

日 時：2012年3月7日（水）
13:00～16:00
会 場：港区内の教室
受講料：2000円

会員情報

- 11月～1月入会された方は以下の3名です。
川合正美、松下光子、みこと佑（敬称略・50音順）
- 2012年度会員継続手続きのお願い
会費振込用紙を送付いたしましたので、3月31日までに
お振込みお願い申し上げます。
- 協会案内/PROFILEをリニューアルいたしましたので
ご覧ください。

○ 皆様の声 募集！

「こんな講座やワークショップやサークルがあったらいいなあ」なんて声をお待ちしています。例えば「絵本読み聞かせ」「古典の出前朗読」・・・そんなのどうでしょう？「もっと低額にして」！？ウーんなかなか難しい！でも言ってみてください。何でも聴く耳は持ってま～す。

講座担当：坂本（☎03-3556-3020）

編集後記

- ・「更級日記」朗読会のことで出演者、スタッフの皆さんから声を戴きました。暮れの超多忙な時に気持ち良く応じ戴き、感謝感謝です。（佐々木富紀）
- ・「更級日記」舞台と聴衆がこんなに一体感のあった朗読ステージは実に久しぶりというか協会2年間の経験上最初のようなのです。朗読の素晴らしさを実感（山田和雄）
- ・先日量販店での事。中学生らしき男の子おつりの銅貨を目の前の募金箱へ。それが自然で感動的だった。震災復興を祈ります。（早川とし子）

朗読ニュース 2012年春号（通巻29号）発行日2012年2月17日
発行 NPO 日本朗読文化協会 理事長 城所ひとみ
〒107-0052 東京都港区赤坂3-8-8 赤坂フローラルプラザビル3F
TEL：03-3584-4451 FAX：03-3584-4452
e-mail:npodoku@rodoku.org http://www.rodoku.org/

瀬戸内寂聴 訳「源氏物語」



源氏物語 上原まり

瀬戸内寂聴訳

千年前の王朝の世界へ誘います

- ◆ 空蟬・夕顔 KICG15070
- ◆ 明石・松風・薄雲 KICG15071
- ◆ 若紫(上・下) KICG15072
- ◆ 紅葉賀・花宴 KICG15073
- ◆ 葵(上・下) KICG15074
- ◆ 玉鬘(上・下) KICG15075



好評発売中

CD全6タイトル 定価・各2,000円(税込)



源氏物語

瀬戸内寂聴訳

心と心が響きあう朗読の魅力

- 朗読：NPO日本朗読文化協会会員
宮崎弥生・秋山雅子・岩瀬弥永子
福田雅世・飯島昌子・安倍眞壽美
坂本有子・加藤敦子・松島邦
- | | |
|------|-----------|
| ① 桐壺 | ① 末摘花 |
| ② 藤壺 | ② 朧月夜 |
| ③ 空蟬 | ③ 六条の御息所 |
| ④ 夕顔 | ④ 明石 |
| ⑤ 若紫 | ⑤ 源氏物語の魅力 |
- (お題) 瀬戸内寂聴

好評発売中

KICG-5068~69 CD2枚組 定価3,000円(税込)

【第42回】日本レコード大賞【企画賞】受賞作品!

昔話ふるさとへの旅

21世紀へつなげたい「ふるさとの昔話」。全国47都道府県を地元の言葉で現地録音。

全47タイトル 好評発売中 各定価¥2,000(税込)

温かく、優しく迎えてくれる「ふるさと」がいっぱいあります。



【CD全47タイトル】KICG-3181~3227 ジャケット表紙絵：鈴木ひろえ

市原悦子さんのナレーションで始まる「昔話」。

7年の歳月をかけて現地の語り手によって、生の声を現地収録いたしました。貴重な伝承文化遺産である「昔話」は、大人や子供達にとって大切な「心のふるさと」です。

7年の歳月をかけて現地で収録した全国47都道府県の「ふるさとの昔話」の数々。かつて「昔話」は、子供達への楽しみや教訓、日常生活意識を反映しながら語られてきましたが、情報文化の発達した今日、「昔話」は大変貴重な日本の伝承文化財産となっています。このCDでは全国のそれぞれの地域に昔から伝わる「昔話」を中心に、現地の語り手によって地元の言葉で現地収録しました。大人や子供達にとっていつまでも「心のふるさと」として、今後私達の生活の中で育まれていきますことを、心から願っています。



全65タイトル 好評発売中!

※全15弾と全10弾の2つのCD組を10タイトルとします。

美しいことばと豊かな心

Roudoku Series

朗読CDシリーズ心の本棚

【第一弾】

【第二弾】

CD全15タイトル 各¥2,000円(税込) CD全15タイトル 各¥2,000円(税込)

【第三弾】日本の詩歌

CD全15タイトル 各¥2,000円(税込)

【第四弾】名作を聴く

CD全10タイトル 各¥2,000円(税込) / 2枚組各¥3,500円(税込)

【第五弾】日本人のこころと品格

CD全10タイトル 各¥2,000円(税込)

■詳しい資料をご希望の方は キングレコード株式会社 〒112-0013 東京都文京区音羽1-2-3 ストラテジックマーケティング本部 制作第二グループ 03-3945-2119

キングレコードの朗読CDはお近くのレコード店で求め下さい。又は下記へ直接お申込み下さい。

●下記によるご注文の商品の送料(¥600)はお客様のご負担となります。

フリーダイヤル 0120-340-670 インターネット <http://www.kingrecords-eshop.jp> (キングレコード・イー・ショップ)

KING RECORDS

FAX 03-3945-9086 ハガキ 〒112-0013 東京都文京区音羽1-2-3 キングレコード(株)内キングダイレクトアクセス行

※キングレコードの情報は <http://www.kingrecords.co.jp>

h/samaTV